

2004年9月30日一新塾名古屋組定例会議事録

場所：伏見 NPO センター

参加：木下（9期）、鈴木（往年の）、加部、三木、近藤、水野、宮田（記）

内容：

1. Japan EASY GUIDE / 近藤氏

●民主党 衆院議員 河村たかし氏との面談報告

- ・ 河村氏は持論を展開⇒公務員減らすことで17、8兆円浮く
- ・ 近藤氏の EasyGuide は行政ありきで供給者論理のシステムではないかと河村氏からの指摘有り

●名古屋市役所 行政経営室 榎崎さん・同室長へのヒアリング調査報告

↓誰が言ったことなのか不明（市側からなのか？近藤さんの指摘か？）

- ・ 近藤氏から名古屋市は財政に関する行政評価を行いインターネットで公開しているが、市民には理解難しいと指摘
- ・ 市側からは、現評価は財務的な配点表にしかすぎなく、今後の方向性とサービスの有用性に関しては評価できない＝企業の財務表
- ・ 現在の市の財務は危機状況で、サービスを削るしか対応方法はない。そのため根拠付けの評価システムという位置づけである。

●今後の展開

- ・ Easy Guide を活用して事例を示すような市民集会を複数の場所で行った上、市民の反応を見ることとする。

2. 猿まね / 宮田氏

- ・ 日本の今までの経緯として、「和魂漢才（菅原道真）」⇒「和魂洋才（福沢諭吉）」⇒「無魂米才（一新塾加部氏）」といった思想と能力の流れがある。
- ・ 今後、我々が望む日本の思想と能力の姿を表す表現として何が相応しいか？
- ・ 出たアイデア> 「多魂叡才」、「雑魂」、「千魂万才」、「含魂」

⇒MLにて各自案出しをする

（メンバー各位からの今後の日本の思想と能力の姿を表す表現案を提案頂きたい）

3. 行政評価と AI / 水野氏

●横須賀市の行政評価について状況紹介

- ・ 内容：アウトプット指標＋アウトカム指標＋前年との向上レベル（市民アンケートに基づく）＋総合評価（ABC）

- ・ あくまで個々の施策の成績表であり、今後の展開が見えない
- ・ 将来の目指す姿に照らした評価はできていない。
- ・ 市民の生活に対するインパクトがなく、資料づくりの為の評価になっている。

- ・ 行政主導の行政評価は個々の施策に対する満足度しか評価できない

⇔ EASY GUIDE は俯瞰的に見る事ができるのが良さ

- ・ 行政に仮説思考はなかなか馴染まない

●「AI」という概念の紹介

- ・ 自民党 衆議院議員 鈴木氏より、スリランカのアリアラトネ氏が AI の概念を用い、サルボダヤ住民を巻き込んだ町づくりの事例（サルボダヤ運動）が参考になるのではないかと助言あり

・ AI（アパシティアティブ／全体的な目的管理）とは、組織の革新的価値が何であるかを見つけ出し、それを基に組織を活性化していこうとする考え方

- ・ 水野氏の周囲では AI の観点を取り入れ、住民も職員も来なくなる職場とはどんなものかをテーマにし環境作りをしようとしている。

4. 案内／木下氏

●こまきアンズ（町づくり団体）イベントの案内

- ・ 11月7日に開催される木下豊氏（一新塾9期／小布施の町づくりをやっている）の講演会の案内（詳細は下記参照）

・ 手伝いが欲しい＞議事録につけ配信するので、手伝う意思のある人は資料内の連絡先に TEL くださいとのこと。

- ・ 上記の案内は、以下の通り

—————＜議事録ここまで＞—————

-----＜イベントのご案内＞-----

第7回「交流の広場」

テーマ：信州小布施『美日常』のまちづくり～人と暮らしから考える

日時：平成16年11月7日（日）小牧市東部市民センター

講師：木下豊氏（編集・出版業、政策学校一新塾OB）

主催 こまきあんず

【講師プロフィール】

1959年、長野県小布施町に生まれる。

1981年、明治大学法学部法律学科卒業

東京法令出版（株）、須坂新聞社（株）に勤務の後、オーストラリア、フィリピンに遊学。

小布施町の第三セクター（株）ア・ラ・小布施勤務（94年～99年）の後、
文屋を創業。

庭を見渡す自宅の一室を仕事場に、編集出版の仕事始める。

つとめとかせぎとくらしの理念は、

「美日常の、いいまちをつくりましょう。」

2000年長野県知事選挙で田中康夫氏を推す活動に参加。

文屋サイトは、<http://www.e-denen.net/>

最新刊は、文屋文庫第四巻の

『野原の奥、科学の先。遠藤守信のクリエイティブ・スピリッツ』

（ナノテク博士・信州大学教授・遠藤守信 著）

『いい会社をつくりましょう。』

（かんてんぱぱ・伊那食品工業（株）代表取締役 塚越寛・著）

小牧コカリナ合奏団・木霊（こだま）

コカリナは木でできたオカリナです。この楽器が日本に紹介されたのは、
長野オリンピックの時。地元出身の黒坂黒太郎さんが、道路建設のため
伐採された木を使いコカリナ製作、オリンピック会場で子供達を演奏し
たことによって、このかわいいハンガリーの民族楽器は、世界中に知ら
れることになりました。